

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-26

部門名： 地域とともにある学校	エントリー名： 山口県立田布施総合支援学校 山中順子 (平成 30 年度第 1 回校長研修)
活動名： 真の共生社会の実現 ～コミュニティ・スクールの取組～	
解決すべき課題： 本校は、コミュニティ・スクールになり 3 年目である。今年度本校に着任し、学校運営協議会の在り方や本校を取り巻く地域との連携についていくつか課題を感じた。研修で学ばせていただいたカリキュラム・マネジメントの視点から解決すべき課題は、「教育課程の編成」「学校運営協議会の在り方」「児童生徒の居住地と学校の有る田布施町との連携」が挙げられる。特に、今回は、「田布施町との連携」という課題について考えてみたい。	
目標・方針： 「田布施町とつながる」 ・児童生徒の毎日の授業や社会貢献活動を通してつながる。 ・児童生徒の就労や福祉を通してつながる。 ・地域の会議、行事に積極的に参加することでつながる。 ・田布施町の特産品（イチジクをジャムに加工）や生産物（給食の材料）を購入することでつながる。 ・本校のセンター的機能（教育支援）を通してつながる。	
活動内容： ・田布施中学校区の地域教育ネットに参加し田布施の子どもたちについて共に考える。 ・幼保小中連携会議に参加し高等部移転や障害への理解について説明する。 ・城南小学校、田布施中学校と本校小・中学部で交流及び共同学習を引き続き行う。 ・高等部産業科生徒が、田布施図書館で清掃や花の栽培、展示を行う。 ・高等部が移転することに向けて校内の教職員の意欲喚起と主体性を養う。 ・特別支援教育センター校として田布施町内幼保小中学校への就学への教育支援を行う。 ・コミスク便りを定期的に発行し、田布施町全地域に情報発信する。 ・田布施町広報に定期的に学校の様子や必要な情報を掲載してもらう。	
活動の成果： ・地域教育ネットの皆さんに本校のことを知ってもらえた。(次の連携ができる土壌ができた。) ・幼保小中の先生方に本校のことを理解してもらえた。 ・教員が入れ替わっても交流及び共同学習が続くような仕組みを考えて行く方向性ができた。 ・高等部が移転しても学校での特色ある活動を地域で広げることができる環境が整ってきた。 ・様々な情報発信のお陰で、「田布施総合支援学校」「高等部移転」「喫茶室新設」等の情報が正しく地域に広がっている。 ・「喫茶室新設」に関しては、名前を公募したので、「広報を読みました。」「ケーキなどは出す予定ですか」「楽しみにしています。」等の反響をいただいている。 ・センター的機能をいかして本校教員の専門性も高まり、田布施町の子ども達のために役だっている。 ・高等部移転という切り口を通して、「教育課程」「来年度行事」「PTA 活動」学校運営全てについて全教職員、保護者、学校運営協議会委員、就労関係、福祉関係の方とも話し合う機会が増え、教職員の主体性が高まった。	
アピールポイント（アイデアや工夫）： ・カリキュラム・マネジメントの視点と来年度の高等部移転を通して「地域に開かれた学校」「地域とともにある学校」を目指しいろいろな取組を行っている。 ・「学校に来校してもらう仕組み」「学校が地域に出て活動する仕組み」を年々構築している。 ・来年度高等部が移転することを契機に「小・中学部」「高等部」「全校」でできることを地域の方や学校運営協議会委員の方、保護者の方に考えてもらう場を設定して、子ども達の成長と自立につなげていきたい。	

コミュニティ・スクールとしての取組

悩みを語る会



地域の郵便局で児童生徒作品展



コミスク便り 1



自立活動についての学びあい



田布施町との取組み

